

木材の 需要拡大

製材所で扱う丸太はどこから？そしてどこへ？

～ 製材用原木と製材品の流通実態の把握と分析 ～

研究の背景・目的

県内の素材(丸太)の流通のほとんどは原木市場を經由していますが、原木市場の取扱量は減少しています。また、原木市場で取り扱われている素材の集荷先や出荷先ごとの樹種や量については十分把握できていません。そこで、原木市場を対象に集出荷先や形質と価格等に関する調査を行い、素材の流通実態の把握と問題点を調べます。

さらに、製材所から出荷される製材品の流通は、製材品の生産が小規模・分散しているため、製材及び流通コストが割高となっています。そこで、製材所を対象に製材コストや生産量に関する調査を行い、製材品の生産・加工・流通の実態把握と問題点を調べます。



写真 - 1 原木市場における素材(丸太)

研究方法

原木の流通実態を把握するため、県内の原木市場(流通センター含む)6箇所で取り扱われた原木の樹種、量、形質、価格、売方と買方について抽出調査しました。

製材品の生産、販売実態を把握するため、県内の製材工場で製材及び販売コスト等を調査します。

研究の状況と成果

平成19年度は、原木の流通実態について、各市場で開催される市のうち月1回を抽出調査しました。

調査市場での原木の集荷量合計は33千 m^3 でした。その構成比はスギが52%、ヒノキが18%、マツが30%で、スギが集荷量の約半分を占めていました。スギは、本県内から50%以上集荷し、それ以外では広島県と山口県の割合が高くなっています。出荷では、県内向けが85%以上と非常に高い割合を占めています。

ヒノキは本県から60%、広島県から30%集荷しています。出荷では、本県内への出荷が60%で、その他に広島県と岡山県への出荷割合が高くなっています。

マツは、本県と広島県からの集荷割合が約90%を占め、ほとんどをこの2県から集荷しています。出荷では本県内へ60%、山口県と岡山県への出荷がそれぞれ15%を占めていました。

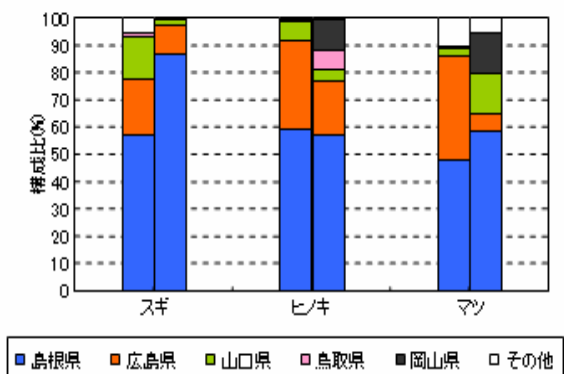


図-1 県別の集出荷割合
(各樹種の左棒は集荷割合、右棒は出荷割合)

研究成果の活用場面・その他

県産材の需要拡大を図るために、県が行う「原木や製材品の新たな生産・加工・流通システムの構築に向けた提言」の基礎資料とします。



MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

所属グループ 木材利用グループ

担当研究者 中山 茂生(なかやま しげお)

問い合わせ先 0854-76-3825

E-mail chusankan@pref.shimane.lg.jp

試験研究課題名: 島根県の木材需給実態の把握と分析に関する研究 (研究期間: 19~21)